

### 作業計画にZ - G I Sを活用しています！高峰ファーム

石川では県本部が中心となり、Z-GISの普及に努めています。Z-GISを導入した経営体も多く、様々な活用方法があります。今回は、JA石川かほく管内の農事組合法人高峰ファームをご紹介します。

#### 地域の農地を守る

(農)高峰ファームは、中山間地の集落営農組織で、4品種の米を、27haで栽培しています。圃場整備も進めており、300以上あった圃場が、60枚の圃場に生まれ変わっています。Z-GISで事業計画を作成し、集落のメンバーで圃場を管理して地域の農業を守っています。

#### シンプルな地図を印刷

Z-GISの導入は一昨年からで、圃場全体を登録し、作物や作業ごとに色分けした地図をプリントアウトして、作業員が確認しながら作業を進めています。高齢者も多いため、圃場に入れる肥料袋の数のみを表記した地図や、苗箱の使用枚数だけを表記した地図、水管理の振り分け表など、シンプルな地図を駆使して、作業員の情報の共有を図っています。



圃場ごとの基肥だけのZ - G I S 地図

#### 水管理の記録に活用

(農)高峰ファームでは、Z-GISを使い面積と筆数に応じて水管理作業者の分担量が均等になるよう管理作業の振り分け表を作成しています。水管理は除草剤を的確に効かせるためにも非常に重要で、Z-GISを活用しタイムリーな作業指示や水管理作業の記録に取り組むとともに、本年度は、中干し後にドローンによる除草剤の追加散布も行う予定です。今後は、雑草の状態・病気の発生や生育ムラなどをZ-GISに写真で保存し、田んぼの見回りの記録として使用したいとのことでした。



令和2年度作付け計画を前に種本代表(右)にご説明いただきました

圃場整備が進み、10a以下の圃場から、30aや1haの圃場へと姿を変えていく中山間の地域

